

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議にて理念の唱和を行っており、職員全員が理念を暗記しており、理念に基づく支援を行っている。	「法人理念」を職員会議で唱和している。各ユニットにはそれぞれのケアの方向性にそった言葉を掲示し確認し合っている。管理者は今後も、理念の共有や意義を確認していくためにも職員研修の場で話し合ったり思いを伝えあい、具体的にはどう実現していくのか等について、話し合う必要を感じ、研修の内容を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の流行により、直接の地域との交流は難しいものの、毎月のGH大形便りを自治会長様にし、31班に配布していただいている。	以前住宅地域で活動していた事業所は、およそ2年半前、大型スーパーやドラッグストア等が並ぶ商業地域の複合施設の中に移転した。丁度コロナ禍の影響も加わり、新しい事業所周りの地域の方との交流が難しい状態が続いている。毎月の事業所広報紙を回覧板に掲載させていただけるようお願いし実施している。また、事業所は新潟市東区の災害時の地域の避難所に選ばれ設備等の整備が行われている。役割を持ち地域の方と協力しながら、還元したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板や御家族様宛のお便りにグループホーム大形での活動や行事予定を記載し、裏面にも写真を載せて事業所での支援を一部紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて御利用者状況、活動報告等に意見や要望を頂き、会議にて職員に伝達共有を行い業務改善に繋げている。	運営推進会議は地域密着型特養等複合型施設の各事業所からの参加や家族代表・包括支援センター職員・近隣事業所職員等の参加を得て令和4年1月に合同開催している。2年半前に移転後書面開催を行い、その都度全ての家族や参加予定者に伝わるよう、開催の都度、運営推進会議の報告書を送付し職員にも伝えている。	現在地へ移転後は、コロナ禍の影響もあり書類開催で行われているが、1回のみの開催である。管理者は職員会議等でその報告を行い、業務改善につながるよう話し合いを行ってきたが、取り組みの中で出てきた課題や経過報告など、具体的な内容の記録や報告書が行われていない現状がある。今後は地域の方達への参加の促しや、意見要望等への検討と取り組み状況や経過報告など、具体的な活動内容を伝えながら、地域の方の理解も得られるよう、共に活動が行えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の担当者と連絡を取り、事業所の実情や支援の取り組みを伝え協力関係を築ける様に取り組んでいる。	市町村担当者の方には、法令の基準など、わからないことがあれば、電話で確認するなどしており、協力関係が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内で身体拘束の研修を定期的実施し、拘束の無いケアについて検討する機会を設けている。	身体拘束適正化委員会は3ヶ月に1回定期的に開催実施している。研修やマニュアルがあり会議等で「記録に残すよう」話し合い、職員は確認している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内で虐待研修の内部研修を行っている。複合型施設内では共同で虐待防止委員会を実施している。	研修計画に「高齢者虐待防止」に関する外部研修と伝達研修を行い、マニュアルを整備している。管理者は職員の慣れた気持ちからくる関係からの言葉かけが暴言のようになるのでは？と気になり、その都度注意している。今年より、複合施設において、各事業所連携し「虐待防止委員会」をつくり、ホールにビデオカメラを取り付けるなど実施。各職員が行うイーケアラボビデオ研修の理解度を自ら把握出来るよう、事業所内で虐待が見逃されることの無いよう留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを整備し、職員会議内で内部研修として説明と話し合いを行う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かり易く説明を行い、疑問点に答えている。職員会議にて、職員にも事業所の契約内容の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様ならびに御家族様からの意見や要望があった場合は、職員で共有し改善する様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、介護主任との面談を行い、意見がないか確認している。上司に対しての要望や改善点、意見も聞いている。	管理者は、年1回は面談し各職員からの意見を聞き取れるよう配慮している。一人一人の職員のその年の目標を一覧表にし、目標の達成度への振り返りを行い、それらが全員が確認できるよう掲示している。日常的にも職員から新聞を楽しみにして待っている方もおり、事業所で1部の配達を2部各ユニットに届くような意見や消えやすい部分にラミネートシートへの変更案など、色々な形での意見があがり、活動に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働ける様に、管理者が実績によって判断し努力が見られる点については認め必要な人材であることを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が技術的にも向上できるようにその人に合った、上を目指せる研修を進めたり、職員の希望があった場合は、研修や資格取得に支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複合型施設として、同施設内のデイサービスセンター、ショートステイの職員と委員会等を通して協力しあっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の生活歴やその他情報に目を通したうえで、どんな支援が必要か御本人様と直接お話しをして安心して頂けるような声掛けを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に御家族様や御利用者様の自宅へ訪問し、不安な事や要望がないか確認を行っている。年に一回のプラン作成時にも意向、要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や既往歴だけではなく、現在の状態に応じて必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様一人一人に出来る事を見つけ一緒にお手伝いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様からの希望がある場合は、テレビ電話を通じてご本人様の様子を確認し、安心して生活して頂けるように支援している。	コロナ禍の現在ではあるが、LINE電話での面会や家族の直接交流もすこしづつ実現するなどして、感染予防に留意しながら、出来るだけ丁寧に説明し、関係を継続できるよう支援している。また、毎月の事業所からの手紙の中にも、生活の様子がわかるような写真や言葉を添えて発信している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様だけでなく、馴染みの友人様とも面会や電話を通じて関係が疎遠にならないように支援している。	家族の方とはLINE電話や玄関コーナーでの直接面会等々少しづつ段階を踏みながら丁寧な対応を心掛けてきた。出身地域の馴染みの方や友人たち等との交流もいつもの関係が途切れないよう配慮しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを行ったり、行事、レクリエーションを通して、入居者様全員が関わり楽しんで生活出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、複合型施設での同施設内の移動の場合気軽に連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成にあたり可能な限り、ご本人様の意向を直接聞き取りを行っている。	入居時からケアプラン作成時は可能な限り、本人の意向や思いを聞き取れるよう、また、無理のないように今迄の生活環境に近くなるよう環境づくりを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様の状態に応じて、サービスの内容を臨機応変に変えて行っている。	入居時家族の方にセンター方式の一部に24時間の生活の様子を直接記入していただき、今迄の生活に近い暮らしになるよう心掛けています。また、入居後も本人の状況に合わせることを心掛け、入居後の顔や表情に留意し、臨機応変に見直している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	機能訓練や日中ホールでの様子について変化がないか会議で確認を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者、介護主任、計画作成者とでカンファレンスを行い、その後ご本人様や御家族様より以降や希望を確認して、再検討した上でケアプラン作成をしている。	カンファレンスには、当日出勤の職員ができるだけ参加し、その時に参加できない職員は事前に情報を担当者に伝えている。家族には電話で意向の聞き取りを行なっている。利用者からの意向については普段からの様子や日々の会話から意見を汲み取るよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは、会議にて一人一人のご利用者様について確認を行っている。気づきがあった場合は、その都度検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族の意向は複合型施設として他事業所と協力して、今まで出来なかった支援も含めて検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルス感染症の流行の為、休止しているが、隣の保育園へは散歩に行かれた際に挨拶するなど関わりを持つようにしている。密にならない外出も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様希望の医療機関へ職員同行で受診されている。提携の医療機関が変わり引継ぎを行い、主治医より月2回の訪問診療や指導をして頂いている。	今までの医院に受診している方は18名中2名の方が通院している。その際は職員が同行し通院している。訪問診療に切り替わっている方についても職員が立ち会い普段の体調面等の情報、バイタル、食事量、排便の表をまとめたものを訪問診療時、受診時に持っていく、日頃からの体調を主治医に情報提供を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での御利用者様の変化を看護に相談し、指導して頂いている。看護師が出勤していない時も電話でいつでも相談、支持を出してもらえる状態にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にフェイスシートを更新して入院時に円滑にご利用者の情報を病院と共有できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた支援について、御家族様の希望を聞き取りを行い御利用者様が、必要な支援・方針を主治医を中心に決めている。	入居時に看取りについての意向を家族から聞き取り、意向がある家族の方には「看取りの用紙」に説明と確認を行っている。看取りの時期が近づいて来ている時は医師に入ってもらいカンファレンスを行なっている。職員にも準備が必要になってくることから、改めて事業所のマニュアルを見ながら、その時の対応について確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護研修や事故防止委員会を実施して、AEDの使用法など全職員が共有出来るように確認している。	緊急時のマニュアルとフローチャートもしっかりと準備され、何かあった際の確認ツールとなっている。複合施設のメリットであり、特養の看護職員に何かあった際に相談できる体制が取れているので利用者の方も安心ではあるが、職員の安心にも繋がっている。24時間サービスなので全職員が研修を受けられない時があるが、受講できなかった職員に対しては、後日、介護主任が伝達している。誰もが研修の内容を知る機会を設けている。	今後は事業研修計画に緊急時の研修を位置付け、毎年度、受講体制を整え、突然来る緊急時を想定した利用者、職員の安全の確保と更なる準備を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合型施設として、環境・災害防止委員会を実施して、マニュアル作成を行っている。避難訓練も様々な状況を想定し、他事業所と協力して行っている。	新潟市より東区の避難所に指定され災害時は救援物資が70名分届くことになっている。自家発電、備蓄水の設備もあり、備蓄品としても2日～3日分を保存している。特養の給食センターの業者からも災害時は食料が送られてくるとのことである。十分な食料の確保の体制が整えられている。夜間を想定した訓練も行われ日々の災害に備えている。	今後、法人全体でBCPを作成する予定とのことであるが、突然来る災害に備え、安全確保に努めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の御利用者様が不穏にならない言葉かけや対応を行っている。	お風呂で同性介護を希望されている方がいるが職員のシフトで調整したり、利用者の入浴日を調整しながら対応している。プライバシーや接遇においては入社時の研修で管理者、介護主任が行なっている。	訪問時に共用フロアのカウンターには記録物が置かれてあった。個人情報を書かれたものであるので、今後はそのようなことが起こらないような注意と取組が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り御利用者様の希望が表現出来るように働きかけている。表現が難しい御利用者には表情等から汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様、個々のその時々のお気持ちを尊重し希望に沿った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の洋服の好みを把握し、好きな時間に着替えをして頂く支援を行っている。起床時は髪を整え希望があれば化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様の好みをお聞きしメニューに取り入れている。旬の食材を取り入れ年中行事時には、季節を感じて頂いている。調理から片付けまでご利用者様と職員と楽しく行っている。	特養の栄養士に栄養バランスを確認してもらい献立をバランスよく立てている。季節やイベントに合わせ、食事でも季節感を味わってもらえるよう献立を立て、楽しみに食事がもてる工夫を行なっている。調理を一緒にしてくれる利用者もあり、準備から後片付けまで一緒にいき、その方の有する能力が活かされ、張り合いがもてる生活を送れるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の食べ物の好み、水分摂取量、食事形態を把握し提供している。御利用者様の日々変化する体調に応じた対応や水分摂取をして頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様には毎食後、職員が付添い口腔ケアを行って頂きご本人様で行うのが難しい方は、職員が介助させて頂き行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為、ご利用者様の排泄チェック表を用い排泄のパターンや習慣を活かして声掛けを行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使いながら利用者の排泄リズムの管理を行い、気になる方がいれば週2回看護師が勤務する際に相談や今後のケアについて共有できる機会を設けている。研修においても「介護技術」「移乗」「プライバシー保護」のトイレ介助技術に必要な研修を行い、日々のケアについて学ぶ機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方各々の御利用者様に、水分不足や運動不足等で改善出来る所は水分摂取や運動の機会を働きかけ、主治医と相談し薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日でも体調の悪い時や拒否がある場合は、曜日を替えて入浴して頂き個々に沿った支援を行っている。	規定では週2回が基本ではあるが利用者からの希望があれば何回でも入浴することができ、料金も変わらない。入浴にも季節を感じてもらうため、変わり湯で季節を感じてもらっている。また介護度が高くなってきた場合は特養の特浴で入浴介助を行える環境も整えており、その方の状態に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後居室で休まれる御利用者様には、時々状況に応じて支援を行い休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が御利用者様のお薬の目的や用途等を薬剤師から聞き、服薬の支援に努めている。内服後の状態についても主治医、薬剤師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きとした喜びのある生活が出来るように、一人一人の力を活かした役割や楽しみ事等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染症の感染拡大が続いておりますが検温、マスク、手洗いをし、人混みを避ける事で外出して頂いている。花見、ドライブ、ぶどう狩り等にも出掛けられている。	コロナ禍ではあるが人混みを避けるよう近隣を散歩したり、地域の市に出向いて買い物したりと工夫されている。またデイサービスに來ている移動販売車が來た際、利用者の方も買い物した際に喜ばれていたもので、今後は施設の空きスペースを活用し、衣服とかを置いて施設内で「買い物ツアー」ができるような取組も考えている。写真等を使ってこの時の様子などを家族に伝えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様より買い物のご希望がある時に職員と共に外出している。精算時に御利用者様にお支払いをして頂いているが現在はコロナ禍の為お店に入らないようにしている。普段金銭管理は金庫にて保管をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様より電話がしたいという希望があればお電話して頂いたり、年賀状のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者様の体感温度に合わせて温度調節、衣類の調節を行っている。季節を感じて頂く為に飾付けを行い行事に参加をして頂き季節感のある生活をして頂いている。	建物が新しく、掃除が行き届き生活感ある空間となっている。天井も高く共用フロアの天窓から光が差し込み明るい環境となっている。職員と利用者で定期的な掃除を行い、施設内の飾りづけは季節感を感じれるよう色彩や時期の物を意識し飾っている。フロアや居室の室温管理も徹底している。ユニットごとに猫を飼って皆さんで可愛がって一緒に暮らしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った御利用者様同士近くに座って頂いている。自由にホール、居室内にて過ごしていただいている。御利用者同士で施設内を散歩される姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者様ご本人の道具や、御主人の遺影、自宅より花やペットの魚などを持ってきて頂き居心地の良い慣れ親しんだ空間を作れるように支援を行っている。	今まで自宅で使用していた家具を持って来てもらい居室の空間を慣れ親しんだ物で環境を作っている。部屋の広さも十分にあり、居心地良く過ごすことに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様が安全に移動が出来るように手すりなどを設置しており机の配置などにも気を使っている。御利用者様の動線には物を置かないようにしている。		